

復活祭第3の主日

携香女の主日

冒頭 P3 <赤本 P1 >

司祭「父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今もいつも世々に…」に続いて

聖歌「アミン」「ハリストス死より復活し、死を以て死を滅ぼし…」3回

(♪) ハリストス^し死より^{ふっかつ}復活し、死を^し以て^し死を^{ほろ}滅し、^{はか}墓に^あ在る^{もの}者に^{いのち}生命を^{たま}賜えり。

日本語
1



ハリストス 死より 復 かつ し 死を 以て 死を 滅 ぼ ー し
 は かに ある も の に い の ち を た ま え り

日本語
2



ハリス トス 死 よ り ふ っ かつ し
 死 を 以 て 死 を 滅 ぼ し
 は かに ある も の に い の ち を た ま え り

スラブ語
3

スラブ語



ハリス トス ヴオスレ セ イ^スメル ヴイ ^スメル チ ユ ^スメル^テ ポ^ラッ
 イ ス シ^チム ヴオ ラ ベ ッ ジ ヴ^オツ ダ ロ ヴ^ア

トロパリ、コンダク

P8 <赤本 P9-13>

主日 2 調「死せざる」、「尊きイオシフ」、光栄は、コンダク「ハリストス神よ」、今もコンダク「死せざる」

死せざる いのちやな^レじ死にく^レたりしと き

神 の 性 の ひかりにてじごくをころせ り

死せしものを地下より復活せしめしと き

天軍みな呼^レで言え り 生命を賜^レうの主^レわが^レかみ^レや

光栄はなんじにき す

続けて

尊 --- と --- き --- イーオ ---

--- シフは --- なんじのいさ --- ぎよき --- 身 --- を

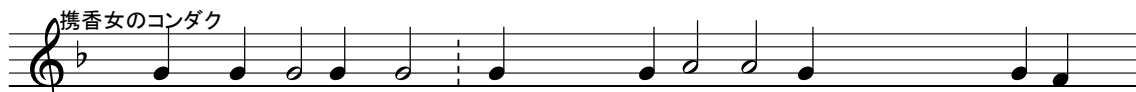
木 --- よ --- り 降ろ --- し --- きよ --- きぬ --- の --- に

つ --- つ --- み 香 --- 料 --- に --- て --- お --- お --- い --- あ --- ら --- た ---

な --- る --- は --- か --- に --- お --- さ --- め --- た --- り

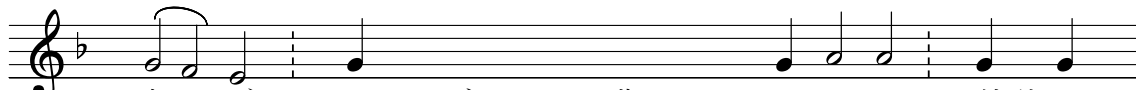


光えいは父と子と聖^{とん}神に帰-す



携香女のコンダク

ハリストスかみよ 爾は復活によつて携香女に慶べよと



告-げ 原母エヴァの 悲しみを止どめ 使徒に



伝えんことを命じた-り 救世主は墓より復かつせりと

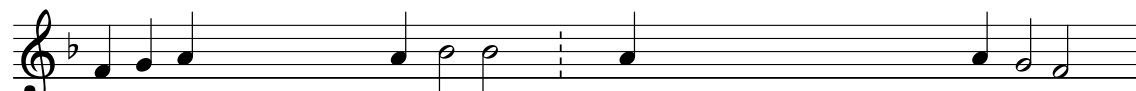


いまもいつも世世に アミン



復活祭のコンダク

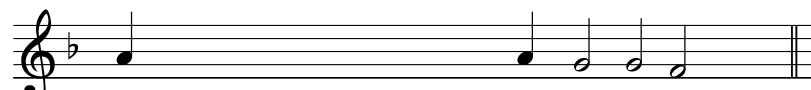
死せざるハリストスかみよ、なんじは^{はか}墓に くだれども、



地ごくの力をやぶり、 勝つものとして復活せり、



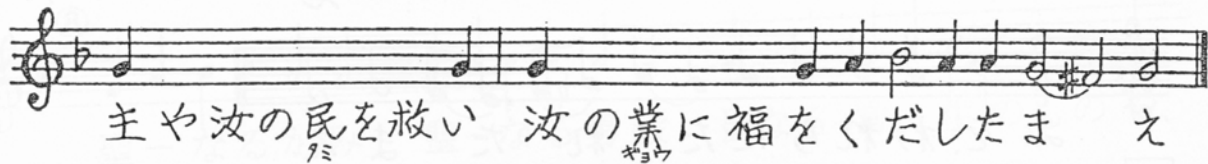
携^{よろこ}香女に慶べよと言ひ、 爾の使徒に平安をあたえ、



滅びしものに 復活をたまえり。

【主や敬虔なる者】【聖なる神】へ戻る

6調 主よ爾の民を救ひ、爾の業に福を降し給へ。
 (句)主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が為に黙す母れ。



聖使徒行実の読み (6:1 ~ 7)
 謹みて聴くべし

か 彼の日、門徒、^{ますます}益、^{くわ}加はりしに、「エルリニスト」がエウレイ人に^{たい}對して^{うらみごと}怨言せし

ことあり。彼等の^{やもめ}寡が^{ひび}日日の^{ほどこし}施濟に於て^{おい}軽んぜられし^{かる}故なり。十二の^{ゆえ}使徒は^{じゅうに}

^{たいすう}大数の^{まね}門徒を^い招きて曰へり、

『我等、神の^{ことば}言を^お舍きて、食卓の^{こと}事を^{つと}務むるは、^{よろ}宜しからず。故に、^{ゆえ}兄弟よ、^{けいてい}

爾等の中より、^{うち}善き^よ證を得、^{しょう}聖神^えと^{せいしん}智慧とに^{ちえ}満てられたる者、^{しちにん}七人を^{えら}擇べ、我等、

^{これ}之を立て、^た此の^こ事を^{つかさど}司らしめ、我等は、^{もつぱ}専ら^{でんきょう}祈禱と^{つと}傳教とを^{つと}務めん』。

此の^こ言は、衆^{しゅうみん}民に^{よろこ}悦ばれて、遂に、^{つい}信と^{しん}聖神^{せいしん}とに満てられたる人、ステファ
 ン、又フィリップ、プロホル、ニカノル、ティモン、パルメン、及びアンティオヒヤの

^{しんきょうしゃ}進教者ニコライを^{これ}選びて、之を^{この}使徒等の^{そのうえ}前に立て、彼等、^{そのうえ}祈禱して、手を^{そのうえ}其上に

^の按せたり。

^{ことば}神の^{ますます}言、^{ちよう}増、^{すう}長じ、^{はなはだ}門徒の^{うち}数、甚^{うち}イエルサリムに^{うち}増加し、^{うち}司祭の中にも多

^{したが}く教に^{したが}順ひし者あり。

アリルイヤ 8調

主よ爾はすでに憐れみを爾の地に施し、イアコフのとりこを帰せり。(楽譜次ページ)

(句) 慈憐と真実とは相交わり、義と和平と相接吻せん。

8調

アリルイヤ アリルイヤ アリルイヤ

福音の読み

マルコ伝 (15 : 43 ~ 16 : 8)

彼の^か時、アリマフェヤの人、イオシフ^{どうとぎしみずか}、貴き^{くに}議士^ま、自らも神の國を俟てる者は、來り、毅然^{きたきぜん}
 としてピラトの許^{もと}に入りて、イイススの^{しかばね}屍^{しかばね}を求めたり。ピラト、其^{その}已^{すで}に死せしを^{あやし}奇^{あやし}み、

百夫長^{ひやくふちやう}を召^めして、『彼^{ひやくふちやう}、死して久し^{これ}きか』と問^{しかばね}ひ、百夫長^{ひやくふちやう}より之^{これ}を知^{しかばね}りて、屍^{しかばね}をイオシフに
 與^{あた}へたり。彼は、布^ぬを買^かひ、之^{これ}を下^{おろ}して布^ぬに裹^{つつ}み、之^{これ}を磐^{いわ}に鑿^{うが}ちたる墓^{うが}に置き、石^{うが}を墓^{うが}の
 門^{まるば}に転^{まるば}せり。マリヤ「マグダリナ」及びイオシヤの母マリヤは、彼^{とこ}を置きたる處^{とこ}を見たり。

安息日^{スポタ}、過^かぎて、マリヤ「マグダリナ」、イアコフの母マリヤ、及びサロミヤ、香料^かを買^かひたり。
 往^ゆきて、イイススに罌^ぬらん爲^{ため}なり。七日^{なぬか}の首^{はじめ}の日^{はなはだ}、甚^{はなはだ}早く、墓^{きた}に來^ひる、日^いの出^いづる頃^{ころ}なり。
 相^{あい}語^{かた}りて曰^いへり、

『誰^たか、我等^たの爲^{ため}に、石^たを墓^たの門^たより移^たさん』。

目^あを擧^あげて、石^すの、已^すに移^すされたるを見^{けだし}る。蓋^{その}、其^{はなはだ}石^{おおい}は甚^{はなはだ}大^{おおい}なり。彼等^い、墓^いに入りて、
 白衣^{はくい}を衣^きたる少^{しょう}者^{しゃ}が、右^{かた}の方^ざに坐^{おどろ}せるを見^{おどろ}て、駭^{これ}けり。彼は、之^いに謂^いふ、

『駭^{おどろ}く勿^{なか}れ。爾等^{てい}は、十字架^{てい}に釘^たせられしナザレトのイイススを尋^たぬ。彼は、復活^こして、此^こ
 に在^あらず。觀^みよ、此^こは、彼^{とこ}を置^{とこ}きたる處^{とこ}なり。往^ゆきて、其^{その}門徒^つ、及びペトルに語^いげて言^いへ、

『彼は、爾等^{さき}に先^{さき}だちて、ガリレヤに往^ゆく。爾等^{かしこ}、彼處^{おい}に於^{その}て彼^{その}を見^{その}ん。其^{その}爾等^{その}に言^{その}ひしが
 如^{ごと}し』と』。

婦^{おんな}、急^いぎ出^いで、墓^{はし}より奔^{おの}り、戦^かき、且^{おどろ}つ驚^{いちごん}きて、一^つ言^{おそ}も人^{ゆえ}に語^{おそ}げざりき。懼^{おそ}れしが故^{ゆえ}
 なり。

「常に福」の代わりに「神の使い」

選択①ワラーム調 P28、〈赤本 28〉

ロシア、アメリカ、フィンランドなどで広く歌われている覚えやすいメロディ

かみのつか - い 恩寵満ちこうむるものに、
呼びてい えり、 いさぎよき 童貞女
よろこべよ、 またいう よろこべよ、
なんじの子 三日一目に はかよりふかつし、
死せしものを 起こせり。 ひとびとや
よろこべよ あらたなる イエルサリム
ひかりひ か-れよ、 主の光-栄は
なんじに かがやきたれば なり シオンよ、 いま
いわいて たの しめよ、 なんじ いさぎよき
生 神 女 なんじが 生みし 主の ふかつを
よろこび たま- - - え

「常に福」の代わりに「神の使い」

選択②日本で広く歌われているもの

かみの^{つかい}使 いくしみをみち^{こう}むるものに^{呼ん}呼ん
でいわ く いさぎよき処女やよろこべ
よ また言うよろこべよ なん じの子三日目にふ
く かつし 死せし者を起こせりひと
びとやたのしめよ あらたなるイエルサ^リムや光り
ひかれよ 神の光栄 爾に輝やけばなりシ^{オン}やた
のしみいわ え なん じいさぎよきかみのははや
なん じの生みし主の復活を喜びたまえ

「常に福」の代わりに「神の使い」

選択③ 簡略版

② を簡略化したもの。②は単音にした場合、臨時記号（♯や♭）が多く、歌うのが難しい。パスハのイルモスの基本的なメロディに還元し、祈祷書のことばに忠実に音楽付けしてみた思索。

第9歌頌
附唱

神の つかい 恩寵を満ち こうむるもの に 呼びて 日えり、
 いさぎよ き 童貞女よ、 よろこべよ、 又曰う、 よろこべよ、
 なんじの子 三日目に墓より 復 かつし、
 死せし者を 起こせり、 人々よ たのしめよ。
 イルモス
 あらたなるイエルサリムよ光 光れよ、 主の光栄 爾に
 輝きたればなり シオンよ、 今祝いて 楽しめ
 爾いさぎよ き 生神女よ、 爾が生みし主の復活を 喜びたまえ。

領聖前に楽しく歌える歌 紹介

たとえばパスハのスティヒラ。古ロシア聖歌、ズナメニイ調によるスティヒラ 5 調による。スモレンスキーが合唱曲にしたものが有名です。

【パスハのスティヒラ】5 調

(句) 神は興おき そのあだは 散るべし。

聖せいなるパスハ、 いま、我等に現あられたり、

新たなる パースハ ひみつの パースハ

至と尊ときパスハ パスハ ハリストス 救世主、

きずなき パースハ 大いなる パースハ

信者のパスハ 天堂てんの門を我等の為にひらくのパスハ、

凡すべての 信者を 聖せいにする パスハ なり。

(句) 煙の散るがごとく 爾彼等を 散らしたまへえ。

福音きんをつたえる おんなたち

来たりて 見たることを シオンに 告ぐべし、

ハリストスの喜ばしき福音^{ふくいん}を、われらより受けよ、

イエルサリムよ、ハリストス王が新郎^{はなむこ}のごとく墓より

出^いざるを見て、喜^{よろこ}びいわいたのしめよ。

(句) 斯^かく悪人等は神の顔^{かんばせ}に因^よってほろび、

ただ義人らは楽しむべし。

香料^{たずさ}を携^{おん}うる女^{んな}たちあさはやく生命^{いのち}を賜^{たま}うものの墓に

来たりて、石に坐^ませる神の使^{つかい}いに遇^あえり、

彼は斯^かく之に告^つげてい^いえり、

何^{なに}ぞ生^なけるものを死者^{しや}の中に^{うち}たずぬる、

何ぞ 朽ちざる者を朽つるものとして かなしむ、

ゆきて 其の門徒に つたえよ。

(句) 主は此の日をつくれり、我等之を以てよろこび たのしまん。

たのしき パスハ パスハは 主の パースハ

いと尊き パスハ は われらに かがやけり。

パスハ に 因つて よろこびて たがいに

あいだく-ベ-し 鳴 呼

パ - - - - スハ、

う れいより すくう ものや、 けだ-し いま

ハリストスは みやより するがごとく、

墓よりひかり出で おんな達を喜びに満てて

いえり、使徒等につたえよ。

(句) 光栄は父と子と聖神に帰す、いまもいつも 世世にアミン、

復ふくかつの日、われ等祝いわいに照らされて、

たがいに相あいいだくべし、我等を憎むものにも

言うべし、兄あだよ、復かつ活かつによって、

みなたがいにゆるして かくうたわん、ハリストス

死より復ふつかつし、死を以て死を滅ほろぼし、

はかにあるものにいのちをたまえり。 3回

パスハのイルモス

ロシアでは歌詞だけを見て、単純なメロディに当てはめて歌うのが普通です。パスハのイルモスの基本メロディに祈祷書の歌詞をあてはめて、単純化して歌いやすくしました。



ふくかつの日 ひとびとよ、 己を 照らす べし、

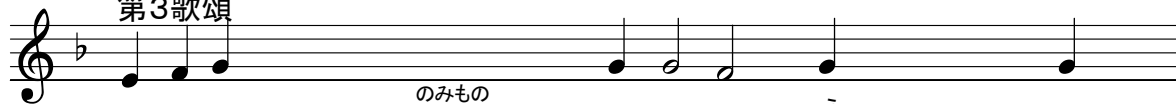


パスハは主のパスハ なり、 ハリストス かみは、 凱歌を奉る



われらを 死より生命に 地より 天に 移したれば なーり。

第3歌頌



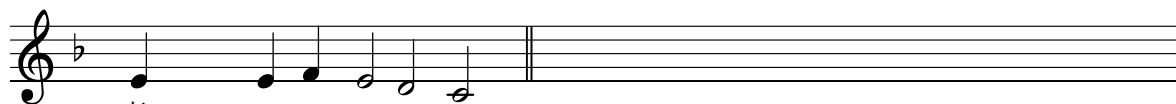
来 たりて、新しき飲料を飲 む べし、 生まざる石より



奇蹟にて出ださるるに あらずし て、 我等の固めなる



ハリス トスの 不朽の 泉を 湧かしし 墓より

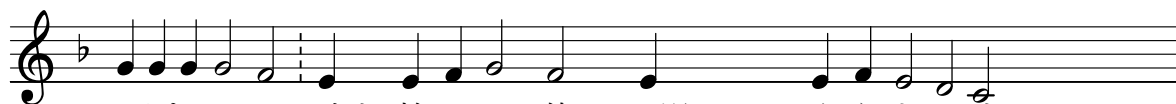


出ださるるものを。 [附唱]

第4歌頌



神の 預言者 アワクム は 我等と 偕に神聖なる 守望に立ちて



示す べし 光を放つ 天使 明らかに 言うものを

今 救いは世界に ^{のぞ}臨めり、 ハリストスは全能者として

復活せしに よーる。

第5歌頌

われ^ら 黎明^よより 起き、 香料の代わりに 讃め歌を

主宰^{しゆさい}にたて まつりて、 義^ぎの 日^ひたる ハリス トス

衆人^{いのち}に生命を輝かす者 を 見る べし。

第6歌頌

ハリス トス よ、 爾は地獄にくだり、 ^{つな}繋がれし者を

籠^こむる世世の鎖^{くさり}を やぶり 三日にしてイオナが鯨^{くじら}より

出^いでしごとく、 墓より 復かつせーり

第7歌頌

少^{しょう} 者^{いろり}を爐より救い し者は 人と為りて

死すべき者の如く苦し みを受け、 其の苦しみにて

死すべき ^{せい}性 に、 不死の美しきを 衣せ たま う
性

これ 讚美 讚栄 せらるる 先祖の 唯一のかみな ーり。

第8歌頌
この 選ばれたる聖な る 日は、 ^{ただ}唯一つにしてスボタの王と きみ

祭の祭、祝いの祝 い なり、 我等此の日に おいて、

ハリストスを世世 に あがめほめん。

イルモス
あらた なるイエルサリムよ光 光れ よ、 主の光栄

爾に輝きたれば なり、 シオンよ、 今 祝いて 楽しめ、

^{いさぎよ}爾潔き生神 女よ、 爾が生みし主の復活を 喜びたま ーえ。

パスハのトロパリ

ルーマニア

Hris- tos a în- vi- at din morti cu
ハリス トス ア ウン ヴィ アツ デイン モルティ ク

moar- tea pre moarte cal- cind și ce- lor di mor-
モアル テア プレ モアルテ カル クンド シ チェ ロル ディ モル

min- te vi- a- tă da- ru- in- du le
ミン- テ ヴィ ア タ ダ ル イン ドウ レ

「既に真の光」 P36<赤本 P36 >の代わりに「ハリストス死より」1回

終結 P38<赤本 P38 >通常は司祭が「ハリストス死より」前半を歌い、聖歌が続く。